

ワークショップ

東アジア農業遺産の保全・活用活動 のモニタリングと評価の手法

日時：2018年1月23日(火) 13:30~17:00

会場：紀州南部ロイヤルホテル 2F グランドホール
(和歌山県日高郡みなべ町山内 348)

主催：国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)

後援：みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会

言語：日本語、英語 (同時通訳あり)

参加対象：大学・研究機関、国内認定地域の関係者、行政等

参加申込：

氏名、所属、連絡先を明記し、2018年1月19日(金)までにメールにて国連大学 (yu@unu.edu) 又はみなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会事務局 (wakayama@giahs-minabetanabe.jp) まで事前の申込みをよろしくお願ひします。



開催趣旨

2002年から国連食糧農業機関（FAO）が実施している「世界農業遺産（GIAHS）」は、現在19か国の45地域が認定を受けており、国内外の関心が高まっている。しかし、世界農業遺産の保全・活用活動に関して行動計画（アクションプラン）がどのように実施され、どのような効果を生んでいるのかなど、活動のモニタリングと評価については十分とはいえない。これに対して近年、日本、中国、韓国が研究機関の協力の下、それぞれ自国のGIAHSのアクションプランの実施に関するモニタリングと評価の手法を開発し、実施し始めている。

本ワークショップは、世界農業遺産の保全と研究活動をリードしている「東アジア農業遺産学会」の日本、中国、韓国の専門家を中心に、各国のGIAHSのアクションプランの実施状況を検証するとともに、モニタリングと評価の手法の開発について議論することを目的とし、モニタリングと評価の実施のあり方について考える。

プログラム

- 13:00～ 受付
- 13:30～ 開会挨拶 国連大学（UNU-IAS）シニアプログラムアドバイザー、
東アジア農業遺産学会（ERAHS）日本事務局長 永田明
- 13:40～ **第一部：世界農業遺産のアクションプランの実施**
- 13:40～ 講演① 世界農業遺産におけるモニタリングと評価の重要性
国連大学（UNU-IAS）上級客員教授、FAO GIAHS SAG 委員 武内和彦
- 14:00～ 講演② 中国における農業遺産の保全と活用
中国科学院地理科学・資源研究所教授、FAO GIAHS SAG 副議長
ミン・チンウェン
- 14:20～ 講演③ 韓国における農業・漁業遺産の保全と活用
韓国協成大学校教授 ユン・ウォンゲン
- 14:40～15:00 休憩
- 15:00～ **第二部：生物多様性の保全を中心とした農業遺産のモニタリングと評価の実施**
- 【モデレーター】 国連大学（UNU-IAS） 永田明
- 【パネリスト】
- 「中国の農業遺産のモニタリングと評価の手法」 中国科学院地理科学・資源研究所助手
ジャオ・ウェンジュン
 - 「韓国の農業遺産のモニタリングと評価の手法」 韓国農業村公社部長 パク・ユンホ
 - 「農村地域内外の多様な主体の連携による生物多様性の保全・活用活動のモニタリング
と評価手法の開発に関する研究」 国連大学（UNU-IAS） 研究員 イヴォーン・ユー
 - 「世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」とアクションプラン達成に向けた取組」
和歌山大学教授 養父志乃夫
- 【コメンテーター】 金沢大学客員教授、東アジア農業遺産学会（ERAHS）日本議長 中村浩二
- 16:00～ Q&A
- 16:55～ 閉会挨拶 みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会会長 みなべ町長 小谷芳正